

平成 29 年 都市環境委員会（ 9 月 13 日）

【1 問目】

富寿栄住宅に関しては、今お話があったように、23年の3月に計画で建てかえというのを決定して、随分時間がたっていますし、近年の災害、ご説明にもあったように災害等を考えたら、早急に実施していただきたいというふうに思っています。

民間手法ということで、PPP/PFI手法というお話が出ましたけれども、運営そのものは、住宅なんかは余りないという言い方はおかしいかもしれませんが、そういう意味では、非常に適した事業になると思いますので、そちらのほうを活用できるように考えていただきたいと。

ただ、ちょっと手法は違いますけれども、指定管理者制度なんかでも、やはりちょっと問題が出てきたりとかしていますので、そういった部分も踏まえて、今後は検討していただきたいということ。

それと、富田のまちづくりという部分も含めて、しっかりといいものをつくっていただきたいと、このように思っていますので、よろしく願います。

もう1つ、お聞きします。

観光情報発信拠点の整備ということで、500万円ですか。いろいろお話がありまして、高槻市駅の改札を出ると、動線というのはやっぱり西のほうに皆さんが行くというのが普通かなと思います。東のほうに行く人は、マンションもしくはコナミですか、何かスポーツセンターみたいなのがありますが、そういう、または奥のほうの安満遺跡公園の手前の住宅、または松原、そちらのほうにお住まいの方が行くぐらいでしょうかね。

私は、けやきの展示館ですか、あそこにちょちょこ見に行ったりするんですけど、本当に人通りが少ないというのが現状ですので、そこに誘導するというのは、非常に重要なことだと思っています。

数年後には安満遺跡公園ができるということを考えてときに、そういうことも踏まえて検討されているんだろうと思いますけれども、その500万の使い方、また、どういう機能、内容であるのか、改めてちょっとお聞きしたいのと、JRの観光案内所、先日ちょっと私のぞいてきました。女性の方が1人受付をされていますね。ちょっとお聞きしたいんですけどということで入ったら、ちょっと不審がられたんですけども、1日100人ぐらいかなと、来られるのがね。

そこは、ただ観光の案内だけじゃないんですよ。いろいろな業務をされているということを考えてときに、その案内所の今までの実績というんですか、効果みたいなものをどのように考えていらっしゃるのか、この2点お伺いいた

します。

### 【1 問目答弁】

灰垣委員の観光情報発信拠点の整備についてのご質問にご答弁申し上げます。

修繕料につきましては、阪急高槻市駅行政サービスコーナー跡の、現市民課執務室の壁と交通部のカウンターを撤去し、一部に新たな壁を設置するなどの費用となっております。

また、観光情報発信コーナーにおきましては、今後進められる安満遺跡公園や城跡公園等の再整備に伴いまして、J R 高槻駅、阪急高槻市駅周辺の中心市街地に観光客の増加が見込まれることを見据えまして、阪急高槻市駅を起点とする観光案内や、本市の観光情報を発信するとともに、高槻の土産品や本市マスコットキャラクターはにたんなどの情報発信を行う予定でございます。

この拠点の一部を高槻市観光協会の事務所として使用していただくことで、観光協会とも連携して市内の観光情報を発信していきたいと考えているところでございます。

観光協会が運営します J R 高槻駅構内の観光案内所の業務内容につきましては、観光スポットやイベント、宿泊施設、交通機関の案内を初め、ガイドマップの配布、特産品の展示、はにたんグッズの販売のほか、市営バス回数券、京阪バスカードの販売、また、現代劇場での一部の公演チケット販売などを行っているところでございます。

この観光案内所の平成 28 年度の観光案内に関する来場者につきましては、年間で 1 万 8, 037 人で、1 日平均 51.7 人となっております。また、電話による案内は、189 件ございまして、駅構内の立地特性を生かして、多くの来訪者が問い合わせる窓口として有効に機能していると考えてございます。

以上でございます。

### 【2 問目】

新たにできる拠点としては、先ほどおっしゃったような感じで、しっかり取り組んでいただきたいと思うんですけども、J R の観光案内所、年間 1 万 8, 000 人余りですか。1 日平均 51.7 人というふうなご答弁でしたけれども、思ったよりお問い合わせがあるのかなと、私は個人的にはそういうふうに思ったんですが、もっと活用するべきなのかなというふうにも。

新たな拠点に限らず、J R のほうも活性化していただくことを、まず望みたいなと思います。本市はビッグプロジェクトと言われるような安満遺跡、先ほど出ました、また、市民会館の建てかえに伴った城跡公園の整備であったり、新名神もちょっと事故があったりしましたけれども、やはりこれも大きなプロ

プロジェクトでしょうし、あと、JRのほうの新ホームも大きなプロジェクトであつたでしょうし、今後もホーム柵の設置も、これも大きなことだと思います。

高槻は、そういったこれからどんどん人を呼び寄せる拠点等も整備されていきます。そういった意味では、こちらの取り組み方一つで変わってくるのかなと、交流人口等も変わってくるのかなと思います。

そんな中で、オープンたかつきでしたかね、これは3回目ということですね。これがどうしても、表紙を見ると応援したくなるんですけども、今回、9月11日に申し込みがスタートしたということで、ある人が、もう既に11日の時点で、この中に紹介されているプログラムで、いっぱいになりましたというようなことをおっしゃっていた人がいらっしゃるんですけども、その中で、高槻市の市営バスの駐車場、車庫を見たいとか、高槻クリーンセンターであるとか、消防本部の見学会とか、民間で言えば、明治製菓のファクトリーの見学であるとか、これがこの中にも出ているんですが、子どもも大人も、こういった社会見学が何か結構人気があるようで、無料というのが人気の一つの秘訣なのかなというふうに思います。

高槻は、非常に地域力というのか、市民力というのか、すごく強いと私は思っているんですね。地域の、例えば阪急の駅からJR、商店街、あれだけ商店街そのものが元気なところって、近隣では私は知らないですね。お店一つ一つもしっかり取り組んでらっしゃいますし、例えば、あしたから西武のほうで「高槻ご当地味めぐり」とかいうのを、これは毎年されているんですけども、個々のお店が元気で、そういったこともやっぺらっしゃいます。そういった意味では、そういうのをどんどん生かしていくべきだろうと。また、有料であるけれども、そういったところにこれから応募があるのかもしれないけれども、どんどん生かしていただきたいなど。

オープンたかつき、3回目ということですので、これまでの実績というのですか、それをお聞きしたいですね。それで、この新たな観光情報発信拠点の活用、これ、オープンたかつきも含めて、どういう活用をされるのか、これを2点目にお聞きいたします。

## 【2 問目答弁】

オープンたかつきにつきましては、市外からの参加者をふやしていくことや、プログラムに参加された際に、高槻の産品を購入していただくことなどが課題となっていると考えてございます。

新たに整備する同拠点におきましては、対面による観光案内や観光情報の発信が可能となることから、オープンたかつきや高槻の魅力についてパンフレットやポスターと合わせ、丁寧な接客を通じて積極的な情報発信を行ってまいり

ます。

また、過去のオープンたかつきでは、JR高槻駅の観光案内所を集合場所として活用してまいりましたが、今後、プログラムによっては、阪急高槻市駅の同拠点を集合場所と位置づけまして、お帰りの際に高槻土産やはにたんグッズを購入していただけるよう、つなげてまいります。

以上でございます。

### 【3 問目】

先ほどから「高槻土産」というのがよく出ていますけれども、高槻には大きな、何というんですかね、土産というのは見当たらない。例えば、京都であったら漬物であるとか、福岡だったら明太子であるとか、いろんなそういった土産物があるわけですが、きょうの新聞に、商工会議所は高槻市の土産を新たにつくろうということで、商工会議所が31事業51品を高槻土産に認定したという報道でした。

今、商工会議所、また観光協会、そして高槻市、こういうトライアングルの中で、このオープンたかつきの構想も、というふうに聞いております。そういった意味では、今、非常に良好な関係にあるなというふうに思っていますので、大いにこういうのを生かしていただく。大きなプロジェクト、プラス市民の力、それによって交流人口をふやす。ひいては、定住人口、微減ではありますけれども、毎年1,000人ほど高槻は減少している中で、こういうのを活用して、定住人口をふやしていける、その一助になればなというふうに期待をしております。

このオープンたかつきも、お聞きすると、高槻市内だけじゃなくて、茨木や吹田や豊中や、またいろんな関連のところにも配布をして、それで呼び込もうというふうにされているようですので、さらに努力をしていただいて、先ほど申し上げました、交流人口の増加、定住人口につなげる、こういうことに期待をさせていただきまして、私の質問を終わらせていただきます。

以上でございます。